

# 北海道文化奨励賞

も ろ ごう しん  
茂 呂 剛 伸

平成12年に太鼓演奏家として、ガーナ共和国に1年間移住し、西アフリカで伝統的に演奏されている「ジャンベ」の製作・演奏方法を習得。帰国後、江別市から出土した縄文土器をモチーフとした複製土器とエゾシカ革を用いて太鼓を創案し、「縄文太鼓」と命名、演奏活動を開始。北海道の歴史文化とアフリカの文化が融合した独自の演奏スタイルを確立し、国内外を問わず、精力的に演奏活動を展開。さまざまな音楽家や舞踏家などとも積極的に共演するほか、後進の育成にも取り組むなど、北海道発の芸術文化の普及向上に尽力している。

また、一般財団法人縄文芸術文化財団を設立し、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」を始め、縄文文化の情報発信にも貢献している。

(昭和53年5月5日生 札幌市在住)

## ◎受賞者の主な略歴

- H12 ガーナ共和国に移住し、ジャンベ太鼓の製作と演奏について学ぶ
- H21 縄文土器の複製とエゾシカ革を用い、「縄文太鼓」を創案、演奏活動を開始
- H22 「北海道陶芸展新人賞」受賞
- R元 一般社団法人 縄文芸術文化財団を設立、業務執行代表理事に就任(～現在)
- R4 「札幌文化団体協議会文化奨励賞」受賞

